

予言に満ちた不可視の声たち

Dancing Brizard

一度限りの声と舞踏

「白・交響」

■アートパフォーマンス「白・交響」

日時 2014年2月15日(土)

2時～3時 「白・交響」 詩の朗読と雪雄子の舞踏

3時～4時 工藤正廣さんを囲んで。

アーティストトーク「100年目のジヴァゴ」

(ドクトル・ジヴァゴ)より

4時～ 懇親会(参加自由)

場所 駅舎カフェpoppola(ポッポラ)

料金 二千円(資料代含)

岩木川河口～十三湖へ

■地吹雪ツアー

岩木川河口～十三湖へ。ロシア文学者 工藤正廣さん、
「白・交響」出演者たちと。

日時 2014年2月16日(日)

集合 駅舎カフェpoppola(ポッポラ)

10時集合、3時解散(昼食各自)

定員 先着10名(要予約)

(車の有無、その他問合せ)

参加費 交通費(ガソリン代割振り)

申込み・問い合わせ 裏面参照

交響曲

■一度限りの声と舞踏 「白・交響」出演者

工藤 正廣 〈ロシア文学者・詩人〉

Kudo Masahiro
(くどうまさひろ)

「100年目のジヴァゴ」
ロシア語による『ラーラの歎き』を詠む。

■1943年黒石市生まれ。ロシア文学者。詩人。
著書に「バステルナーク 詩人の夏」「ドクトル・ジヴァゴ論
攷」「ロシア/詩的言語の未来を読む」「TSUGARU」訳書に
バステルナーク抒情詩集全7冊、ローブシン「蒼ざめた馬
漆黒の馬」。2013「ドクトル・ジヴァゴ」完訳

新井 高子 〈詩人〉

Arai Takako
(あらいたかこ)

「ベットと織機」(新刊) より朗読。
詩の主な舞台はわたしの実家、群馬県桐生市の織物
工場をモデルにしています。ことばの埋蔵力を汲み
だすため、上州弁をベースにした「土地ことば」を
新しい詩の韻律として声に挑みます。

■1966年、群馬県桐生市生まれ。『詩集 霸王別姫』(緑鯨社)、
第2詩集『タマシイ・ダンス』(未知谷、第41回小熊秀雄賞
受賞)。
英訳詩集『Soul Dance』(Mi Te Press, Jeffrey Angles訳)。
詩と批評の雑誌『ミテ』編集人
(<http://www.mi-te-press.net/>)

船越 素子 〈詩人〉

Funakoshi Motoko
(ふなこしもとこ)

漂白された記憶をじゃぶじゃぶ洗い出し
私の内奥の秘密のソシエテから紡ぎ出す
親密なシグナル届け君へ

■北奥気圏主宰
・論文
「中江兆民のリベルターモラルをめぐる」
・詩集
1992年『セルロイドの記憶』
土曜美術社 青森県詩人連盟賞
1999年『R・フローティガンのいる風景』
ぼえとりくす叢書 斜塔出版
2013年『半島論あるいはとりつく島について』
思潮社

雪 雄子 〈舞踏家〉

Yuki Yuko
(ゆきゆうこ)

舞踏 BUTOH 「ヴァルイキノ」
一白く白い太陽。『黄水仙、ラーラさんをそよがせて。』

■72年、大駱駝艦の創設に参加。75年北方舞踏派。土方巽の
死の前年に振り付けられた「鷹さしき」で女鷹を舞う。92
年「蝦夷面」で北国の生命力を現出する舞踏家として高い評
価を受ける。93年、津軽へ移住。原初の命と出会う。三内
丸山遺跡縄文大祭。06年より大野一雄フェスへの参加。07
年、サンクトペテルブルグ・モスクワ公演。010年増剛造
氏と「拈花瞬目」(信濃講堂)011年より「水の巡礼」を開始。

■Special Guest

津軽三味線
小山内 薫 Osanai Kaoru
(おさないかおる)

■申込み・問合せ

PoppoJa 
cafe & free space (ポッポジャ)

コミュニティ・カフェ ぽっぽら

〒038-1214 青森県南津軽郡藤崎町常盤二西田39-2 (JR奥羽線 北常盤駅)
電話 0172-65-2338 mail: torinouta0403@gmail.com